

第6回総合球技場基本計画検討委員会 議事録

日 時	平成30年12月25日(火) 13:30~15:30
場 所	ホテル談露館 1階「アンバー」
出席者	(委 員) 清水委員長、飯沼委員、佐久間委員、佐藤委員、土屋委員、 長倉委員、布施委員、傍士委員、松野委員、三ツ谷委員 (山梨県) 総合政策部長、総合政策部理事、総合政策部次長、リニア環境未 来都市推進室長、エネルギー政策課長、都市計画課長、スポーツ健 康課長

1 開会

事務局

本日はご多忙のところ、ご出席いただき誠にありがとうございます。これより第6回総合球技場基本計画検討委員会を開催いたします。本日は竹内委員が所用のためご欠席です。

2 総合政策部長あいさつ

事務局

委員会の開催にあたり山梨県総合政策部長よりご挨拶申し上げます。

総合政策部長

委員の先生方には年末の大変お忙しいところ、ご出席をいただきありがとうございます。これまでの委員の先生方の貴重なご意見や、県民の皆様にアンケートのご協力をいただき、前回モデルプランや配置計画を示すことができ、だんだんと形になってきたと感じております。本日は、小瀬スポーツ公園全体の配置計画や環境共生の在り方や事業収支、運営収支の在り方などについて議論いただく予定となっておりますが、これまでと同様先生方の忌憚のないご意見をいただき、有意義な会となりますよう期待を申し上げまして挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく願います。

3 委員長あいさつ

事務局

続きまして、清水委員長よりご挨拶をいただきたいと思います。

委員長

年の瀬のお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。この検討委員会もいよいよ終盤にさしかかっています。基本計画に結び付く検討委員会という役割ですが、本日は環境や防災、あるいは事業収支、運営収支等、非常に県民の皆様方の関心の高い議題が

盛り込まれています。ご協力とご支援よろしくお願ひいたします。

4 議事

(1) 小瀬スポーツ公園全体の有効活用方策について、(2) 環境共生・防災機能・交通アクセスの考え方について

事務局

ありがとうございました。議事の進行につきましては委員会設置要綱第4条第1項の規定により清水委員長にお願いしたいと思います。

委員長

本日の議事はその他を含めて5つあります。議題が多いので、スムーズな議事進行のために、資料1と資料2を一緒に、また資料3と資料4を一緒に進めていきたいと思ひます。それでは最初に資料1と2について事務局から説明をお願いします。

(資料1、資料2について事務局より説明)

委員長

ありがとうございました。前回までのご意見を元に、資料1については有効活用の方向性についてご提案をいただきました。資料2については環境共生、防災、交通、この3つについての考え方と想定される対応策をまとめてご説明いただきました。1と2についてどちらからでも結構ですのご意見をいただきたい。

委員

資料1のP1のカシマスタジアムキャンプについては、スタジアムができてから結構時間が経った後の取り組み。事前に計画していたのではなく、出来たものをみんなで見て考えた結果出てきたアイデアだと思ひます。そういう意味では出来るだけ甲府でも、自発的に作り上げていこうという姿勢が必要である。それが、スポーツに関心がない人にも、一緒に考えてもらうことにもつながる。歌会始の一般の入選者に甲府西高の生徒が選ばれたとの報道があったが、このような人がいるのだということを見逃してはいけない。短歌の大会を総合球技場で開催することも可能かも知れないので、できるだけスポーツに興味の無い人達もぜひ念頭においたらどうか。

委員長

大変貴重なご意見だと思ひます。ありがとうございました。

委員

スタジアムの芝生がどのような形になるのか決定していない中で、私どもは現在、葺崎中央公園、山梨大学医学部の2つのグラウンドを使わせてもらっている。今までよりも強い芝生を作らなければいけないという事で、クラブとして、芝生業者と協力して実験をしている。芝生の刈り方あるいは芝生の1つ1つの目の幅を少し広げるためには肥料をどのように加えるべきか等に取り組み、今年のシーズンについては、非常に芝生の状態が強くて通常に比べて耐久性がかなり改善されたと思う。最終的に、その結果をどこかで反映できればと考えている。

委員長

ありがとうございました。説明の中にありましたパークマネジメントを活かした事例はあるのか。

事務局

スタジアムが関連した具体的事例は承知していない。

委員長

そういう意味では、第一号のモデルケースになる可能性もある。他にありますか。

委員

資料1のP5について、小瀬スポーツ公園は桜が名所ということで、桜などをテーマとしたイベントの開催が可能とあるが、今は、街中いたるところでライトアップ、クリスマスイルミネーションがあり、桜だけでなく四季折々の風景、景色を見せるような飽きさせない仕掛けが必要である。

委員長

いまのご意見に私も賛成で、それをお聞きして、ものづくりの発展プロセスを想起した。クオンティティからクオリティ、クエストへ、となっている。今や、ものづくりは量から質の時代に入り、その上の物語性という新しい段階にきている。このスタジアムも四季折々の物語をつくるような取り組みが求められるだろう。

委員

資料2のP12のシェアサイクルについて、リニア駅から小瀬までどれくらいの距離で自転車では何分間でアクセスできるのか。山梨県の自転車活用推進計画策定委員会の委員も務めており、つい先週も会議が開催されたところ。自転車活用推進法が制定され、それに基づき県、市町村が計画として、自転車が関係するあらゆる分野を網羅する計画、例えば、

通勤通学の自転車、観光で来られた方のシェアサイクル、レンタルあるいは自転車等をそのまま公共交通手段に乗せるサイクルバス、サイクルトレインなど色々と計画を検討する中で、山梨県は観光に焦点を当て、自転車利用推進を進めようとしている。そのような県の計画等とリンクさせる事でシェアサイクルがあれば、小瀬にも観光客などが立ち寄ることができる。リニア駅から小瀬までそもそも自転車でどれくらい時間がかかるのか、距離が分かれば教えていただきたい。

事務局

約 3km 程度で、自転車でも往訪可能な距離である。

委員

自転車専用道路やシェアサイクルをどこに作るのか等、県庁内で横の連携をして進めていただきたい。

委員長

あの辺りの土地は平らですか。

事務局

河川区間以外は平らである。

委員

資料 2 について、環境、防災、交通はすべて繋がっていること。それはハードの話ではなく、市民がどう行動につなげていくのかが大事である。例えば車をいかに使わず、いかにゴミを出さないかという全ての行動を我慢出来るかどうかということではないか。環境都市で世界的に有名なフライブルクでは、いかに車を使わないか、ゴミを出さないスタジアムにするか、というところから今の街が出来ている。姉妹都市の議論をするとしてもそういう所と上手に付き合えばよい。SC フライブルクは 20 年前にはまだ 1 部リーグにいなかったが、今は 1 部リーグに定着している。車を使わないことは自転車を使うことに繋がり、それはサイクリングロードをつくろうという話に繋がる。是非このテーマの中で、どう行動をとるのかという繋がりを生み出してほしい。

委員長

たいへん重要な意見である。来年はドイツ、オランダの先進事例視察に行かれてはどうか。

委員

環境や交通などにおいては、「既存のものをどれだけ効率的に活用するか」が重要である。車の場合、平日の駐車場利用量とＪリーグの試合開催日の駐車場利用量とでは需要に波があるのがスタジアムの特徴である。Ｊリーグの試合開催日において公園内の駐車場では足りない場合、新たに駐車場を作るのではなく、周辺地域で空いている民間の駐車場を試合開催日だけ一時的に貸し出し、その分、駐車場の運営者の方々にお金を落とすなどシェアリングエコノミーで有効活用するのも一案である。

環境面で言うと、イベントをたくさん開催することは、賑わいをもたらすためには大事だが、これを機に周辺でイベントを開きやすい環境をつくることも重要である。代々木公園では、集客力があり広告宣伝効果もあるため毎週末にイベントが開催されているが、水回りやテントの設営のための整備が不十分などの課題があり、コスト負担が必要以上に大きくなってしまっている。

周辺地域の宿泊施設や他のスポーツ練習施設など既存の様々なものを効率的に活用しながら、官民で協力し合ってプラットフォーム化していくことが重要である。

委員長

自転車のシェアだけでなく、駐車場や宿泊施設などのシェアリングも可能であるということ。水は本県の強みなので、その点はイベントにはもってこいの条件である。

委員

今のご指摘はたいへん素晴らしいポイントである。イベントを開催する事は大事で、Ｊリーグの試合以外の時、何をするのかを考えた場合、イベント向けの場所だと思っても、水や電源がない、というケースがある。目に見えないところを準備しておくことが大事で、県民の方が普段目にしないバックヤードの部分に配慮しておくこと、ロコミで使いやすさが伝わっていく。資料１のP5に公園全体でのイベントの実施とあるが、地域では当たり前のものでも外から見れば目新しく映る注目すべき、発掘すべき資産がある。桜の名所であることだけでなく桜以外にもPRしたいこともあるのではないか。住民の方々からアンケートを取って終わりではなくその中の良いアイデアを受け取り、実現していくことが大事である。

委員長

ありがとうございました。

委員

山梨県内の交通アクセスについて、環状道路が出来ると自動車の乗り入れは必然的に増え、交通渋滞が起これると思う。そのあたりを考えると、各市町村との連携と自動車を使わずにアクセス出来る方策が気になった。環状道路ができると自動車利用者は便利であるが、

車を使わずにどうアクセス出来るのかが気になる部分。

委員長

車に頼らないアクセスの方法をしっかりと考えるということ。

委員

小瀬にはウォーキングや散歩でよく行きます。桜の名所があり、春の桜、緑の美しさ、歩いていてスマホで思わず写真を撮りたくなる事があります。夏になると緑が濃くなり、秋になると紅葉があり、季節ごとに様々な利用者が四季折々の魅力を味わっている。県の他の魅力と結び付けてそれをイベント等で活用できればいいのではないかな。

委員

車をいかに使わないかという事で、子供たちにたくさんスタジアムを活用してもらいたいが、山梨では親の送迎がないと難しいため、交通機関、自転車、送迎バス等の環境づくりが必要。それからサッカー、アメフト、ラグビー以外の競技でも、ピッチを活用したイベントとして映画の上映などでも活用できるのでは。富士吉田市のように小瀬でも日本代表クラスのスポーツの合宿地、キャンプ地になればよい。

委員長

はい、山梨県の良さ強みと同時に、炬燵・縁側というものは山梨の伝統的文化を表すものである。そういうものを示していけるとよい。小瀬スポーツ公園の中に作るということで、こういう球技場というのは他都道府県ではどういう例があるのか。世界には色々あると思いますが、公園と共に球技場がある事例はあるのか。

委員

世界にはたくさんある。Jリーグのスタジアムも都市公園の中にあるものがほとんどである。

委員長

公園の中にあるスタジアムというのは普通の事と理解できた。良い点は学び、ものづくりからかたちづくりへといった一つの物語をつくっていく発想など、スポーツに関心の無い人たちを引き込むようなイベント等を考え、県民参加型で、PR していくことが大事である。

委員

私は山梨県民ではないので地域事情にうといが、車を減らす観点やスタジアムビジネス

を考えた場合、駐車場の有料化を考えてみてはどうか。特定のメンバーだけが駐車場付ラウンジサービスを受けることができるようなあり方も検討の余地があるのではないか。駐車場の有料化は当たり前になってきているのでご検討いただきたい。

委員長

以前は大学の駐車場も無料だったが、有料化・民営化という流れになっている。駐車場の有料化についてどうか。

事務局

駐車場は第3駐車場の代替機能が必要になるので、場所について検討していきたい。また、現在小瀬スポーツ公園の駐車場は無料だが、一つの価値として、総合球技場にすぐ隣接する駐車場についてはご負担いただく代わりに、イベント時に直前に行っても駐車することが出来るということは魅力になるかもしれないので、そういったことも含めて検討していきたい。

委員

一部の駐車場を有料化することに賛成である。イベント時には、一般の利用者がブロックアウトされてしまい、駐車できない状態にある。これを考慮すると、有料の部分を確認するということを検討しなければならない。

委員長

むしろ有料にすることによって、質的な効果にも期待が高まる。

委員

周辺地域の民間駐車場はすべて有料化になっている。もともと反対だった人々もある程度の収益があるため今は受け入れていると聞いている。

委員長

ありがとうございました。そのほか資料1・2についてご意見はないでしょうか。なければ今いただいた意見も含めて基本的には資料1・2の考え方については了承されたという事で進めます。

(3) 運営収支の改善に向けた方策について、(4) 事業手法の検討について
(資料3、資料4について事務局より説明)

委員長

ありがとうございます。資料 3 では、スポーツ庁のガイドラインに基づく運営収支の説明がありました。民間事業者の意見内容を踏まえ、そのアイデアと検討課題等の意見がありました。資料 4 の事業手法については、4 つのパターンをまとめて比較検討を行っています。

委員

この 4 パターンについて、建設期間、利用できるまでのスピードはどのように考えればよいか。

事務局

それぞれ必要な検討期間もあるが、一般的には DBO のパターンが早く、PFI については、事業者の選定等にある程度の期間が要されると承知しております。

委員

2 点ある。確認だが、北九州市のミクニワールドスタジアムは日本初の PFI による整備ということで間違いないか。また、資料 3 の P7 に、スタジアムでしか食べられない、見られない、買えないものとあるが、山梨ならではの創意工夫が大事だと思う。中でも、質の高い料理が提供出来る厨房がキーだと考えており、視察に行った際にも、クラブラウンジが綺麗に整備されていても、厨房施設がなく料理を温めるくらいしかできない施設をいくつか目にした。特に、山梨ではクリスマスの時期でも、あまりクリスマスモードを感じられず、イルミネーションも少なく、都心のホテルのような雰囲気の中で美味しい料理を食べられる場所も少ない。スタジアムのクラブラウンジで、期間限定でも、料理が提供できる厨房施設というのはしっかり整備をしてもらいたい。

委員長

北九州市のミクニワールドスタジアムは日本初の PFI による整備ということで間違いないか。

事務局

北九州市のミクニワールドスタジアムは日本初の PFI による整備である。視察等をさせていただいた中で、この進め方について調査研究しているところ。

委員

フクダ電子アリーナはどうか。

事務局

フクダ電子アリーナは通常の公共事業であったと承知している。

委員長

2つ目の取り組みについてはどうか。

委員

今回想定される事業手法について、資料4のP6のパークPFIは、メインスタンドを民間収益施設として、サイド・バックスタンドを公共施設とするということで、ある種、空港のように滑走路エリアが公共施設で、商業施設エリアは民間収益施設という考えに近く非常に興味深い。スタジアムでこのような手法をとるのは日本では初めてだと思うが、メインスタンドが収益をあげて稼動し続ける施設になるのかどうか重要なポイントになる。収益施設をどのようなビジョンや方針の下で建設していくのか、スカイボックスやビジネスラウンジは具体的にどのように運営していくのかなどを十分検討を重ねた上で、どのような民間企業を入れるのかを決めていくことが大切になってくる。今回のスタジアム建設においてはこのメインスタンドの建設・運営の仕方が一番の肝になるため、この手法をとるのであれば、県としてのビジョンの落とし込み方、それに賛同する民間企業の選定が一番大事なポイントになる。

委員長

ありがとうございました。P6のようなつくりは我が国初である。

委員

P6をうけて、区分所有という形が日本で実現出来ないものかとイメージしていた。私の発想は逆で、サイドスタンド、バックスタンドを民間、メインスタンドが公共と考えていた。受けてくれる民間事業者が現れるかどうかによるが、ブランディングが非常に重要である。他のスタジアム構想の委員会に出ていると、中にはスタジアムは収益が上がらない、受けてくれる事業者が居ないなどの意見ばかりで、負のスパイラルに陥っている委員会もあるが、ちょっと待つて欲しいと思った。これから作るものがどれだけ夢があるのか。サッカーに興味がない人達も巻き込める、これまでにない新しいスポーツのエンターテイメントの劇場を作るということ。そこに自分達も入って行きたいと思えるような見せ方、アプローチ、すなわちブランド作りが全く欠けた中で負の思想の中に入っているところがある。レアル・マドリードの新しいスタジアムの改築の様子を6分間にまとめたプロモーション映像があるが、まさに夢の舞台がブランドそのものになっている。そういう働きかけをすれば必ず区分処理などの事業化は成功すると思う。

委員長

やはり、ものづくりからかたちづくりということ。発想の転換が重要である。

委員

資料3のP7～8の収入確保策・支出削減策については、概ね網羅されている。ただ、想定される事業手法の中に、収入性を高め、支出をなるべく削減するというところで、民間の皆さんのお力を注入する事とブランディングを高めるという話になるが、民間の事業者の参画がどのくらい見込まれるかということ、実際は難しいと考えている。現在サウンディングも行っていると思うが、そこはしっかり検討してもらいたい。もう一方では、収入の確保、支出の削減について、事業でまず出来るところを現実問題としてどのようにやっていくのかということ。

委員

資料3のP2について、ITデータ活用による収入確保の方策が書かれており、スポーツ庁が旗を振っているのは分かるが、10年後、20年後はどうかを考えた時、きちんとハードとそれを運営するソフトや収益について考えたほうがよい。ITを導入した場合は、必ず毎日複数の専門家がサポートしなければならず、安易に導入するのではなく、人材等の体制も検討した上で、対応できる事について線引きをして、しっかりとしたデータを提供することが大事なのではないか。

委員長

ありがとうございました。

委員

駐車場の有料化について、車の乗り入れは必然的に県内では多くなる。収益の部分でも西側と東側の駐車場の有料化、立体化、スタジアムへの通路の整備等によって雨に濡れないスペースができ、そこでもイベント展開できるなど、イベント収入と地域住民が参加しやすい流れができるのではと考えている。

メインスタンドがメイン収入であるが、山梨県は北風が強くなると思うので、サイドスタンドの北側に風よけを付けたら西日が入るとバックスタンド側の日当たりが良くなるので、メインスタンドを逆にしたほうがいいのではないか。日の当たる温かいスタンドで見たいという考えもあるのでは。事業収入で駐車場の有料化に伴って、ビジネスシーンに対応する場所を確保し、企業にお金を出して貰って企業に会合などのビジネスシーンで使用してもらいたい。事業手法に関しましては赤字にならないためというマイナスの発想もありますが、山梨の未来のためにここがどういう風に使われるのか、企業目線で考える必要がある。投資は慎重になると思うが、企業に投資していただけるような世界に誇れるス

スタジアムにしたい。

委員長

ありがとうございました。事業手法の 4 つについて基本計画では、具体的にある程度イメージや設計図ができてくると思うが、どの方式でも尊重されるのか。それとも、この 4 つのいずれかに決めた時に、かなり修正されて当初の構想案とのずれが多くなるという事はないという事でよろしいでしょうか。

事務局

今議論いただいている基本計画の内容は当然尊重した上で、この事業手法を一本に絞るのは基本計画では難しいので、次の段階で専門的な内容を加味して具体的に進めていきたい。

委員長

専門家から見るとこの 4 つに優劣はつくのか。P-PFI という新しいモデルもあるが。

委員

やはり公設公営の分離発注は選択肢としては絶対にはないと思う。その中で、デザインビルドは南長野のスタジアムも事例にあり、抜群にスピード感があつた。PFI-BTO やコンセッションは相手ありきの事業なので、どこまでできるかということ。P-PFI は、公園でも色々なことができるようになったということで、しっかり議論しながら進めればいい。資料 4 の P7 の①、④をしっかりイメージをしながらも、もちろん②、③の相手がいるというのであれば大歓迎である。

委員

スピードとできた後の自由度が重要である。資料 3 の P7 について、収入確保方策について、ネーミングライツを募集する相手は国内にとどまらず世界中で良くて、いかに高くしていくのが重要である。どんどん更新する毎に高くなるか、価値を高めるのは誰なのか。浦和レッズが盛り上がっているが、埼玉スタジアムはネーミングライツがなく、一体ネーミングライツの値段はどれくらいつくのか疑問に思った事が原点。当初よりどんどん上がってきているはず。ネーミングライツを上げる主体は利用者として書いてある。今回の場合はヴァンフォーレ甲府が価値を高める重要な役割になっているのではないかと。今までの利用料金的な発想、つまり減免しますという言葉遣いはやめたほうがいい。もしホームという意識があるのであれば、一利用者ではなく、自分達のクラブとなればそれなりの扱い方をしたほうがいい。MLB や NFL では、スタジアムのネーミングライツの募集権をホームクラブに渡して、クラブが価値を高めるのに使うメカニズムになっている。そこまでいかなくて

も共同で募集をかけて、契約のなかでどのような主体がどの権利を貰えますということを行うことで、ネーミングライツ収入を高めていく策になるのではないかと思います。

委員長

ちなみに国内のネーミングライツで一番高いのはどこになるのか。

委員

味の素スタジアムとパナソニックスタジアム吹田が年間2億円。

委員

ネーミングライツの期間も大事だが、スポンサーが変わると名前が変わるので、必ず入れるべき固定名を設定した方がいい。

委員

4パターンの優劣ではなく、メリット・デメリットで検討すべきである。DBOの方法をとればスピードは速いかもしれないが、民間企業の自由度は下がり、従来通りの指定管理による運営になってしまう。また、資金調達も県が全部負担しなければならない。

これに対して、パークPFIなどの区分所有では、民間企業が一部を所有することになり、民間企業としてはかなり思い切った事業になるが、今までにないものを作るという事を目指すのであれば有効な事業手法となり得る。また、民間資金からも資金調達ができ、県の負担を減らせるというメリットが出てくる。

どのようなスタジアムにしたいか（特にメインスタンドをどのような民間収益施設にしたいか）によって事業手法は選ばれるので、どれが良くどれが悪いとは一概には言えない。どのような民間企業と今までにないスタジアムをどう作っていくかを決めたくて事業手法を選ぶことが大切で、あくまでも事業手法はその手段である。

委員

事業手法については、公園全体の利用について考えた時に、みんなの球技場という考えの中で、何を求めていくのか、どういう球技場の使い方をしていくか、色々な方が施設を利用する方法についての総合的な検討の結果によるべきである。もう一つ、球技場を1つの経営の議論と受け止めてしまうが、全体をどうするか、例えば今まで何回かお話ししているが、球技場ができることで山梨中銀スタジアムの使い勝手が変わってくるかもしれない。そういう中で、この4パターンの事業手法の中に組み込まなくてもいいのかもしれないし、球技場だけではなくて、もっと広く考えた経営の手法が求められるかどうかということも整理した方がよい。

委員長

その通りだと思います。ありがとうございます。まだまだご意見があるかと思いますが、資料 3・4 についても、方向性、提案については検討委員会としては基本的には了承とする。

全ての県民が 1 年中を通して、ここに集まり、楽しんだりできる、新しい時代の物語をここで生み出すということだと思います。

(5) その他

委員長

その他について、先般 J リーグの理事会において、スタジアム基準のリーグ規約が改訂されました。規約の改定について、委員から説明いただきたいと思います。

委員

配布資料「フットボールスタジアム整備を推進するためのスタジアム基準の改定について」P2 にサマリーがある。これまでは、基準を満たしたスタジアムがなければ上位カテゴリーのクラブライセンスは取得できなかった。例えば、昨年 J3 でブラウブリッツ秋田がリーグ優勝しましたが、J2 基準を満たしたスタジアムがなかったために J2 へ昇格できなかった。今年は FC 町田ゼルビアが J2 で 4 位になったが、ホームスタジアムの規模が J1 基準よりも小さかったため J1 参入プレーオフへの参加資格は与えられなかった。

このような状況下で浮き彫りになる課題を踏まえ、2019 シーズンから、P2 のよりよい施設整備の促進のための新基準を設けた。例外規定 1 は、条件を満たすための改修工事が着工されており 3 年以内に完成するのであれば上位ライセンス取得が可能になるもの。例外規程 2 は、J リーグが掲げる理想的なスタジアムを整備いただけるのであれば、5 年の猶予が認められ、上位ライセンスが取得可能になるもの。着工していれば例外規定 1 との併用も可能なので最大 8 年となる。

ヴァンフォーレ甲府は J1 ライセンスを取得済のため、新設した例外規定を使う必要はないが、ご留意いただきたいのは P8。J リーグが掲げる理想のスタジアムは、①アクセスが優れている、②すべての観客席が屋根に覆われている、③ビジネスラウンジやスカイボックス、高密度 Wi-Fi といったホスピタリティ施設が備わっている、④フットボールスタジアム。その下に「上記 4 要件については将来的に義務化する方向で検討を続ける」と記してある。つまり、屋根のない陸上競技場は将来、ホームスタジアムとしては認められなくなるとのこと。すでに山梨県では、こうした理想像の実現に向けて検討を進めていただいているが、今回、この理想のとする要件が公表されたということ。この理想的なスタジアム推進のための補助金制度も新設された。

ちなみに、毎年 J リーグがシーズン総括を掲載している「J.LEAGUE PUB REPORT 2018」に詳しい解説が記載されているので、のちほど当該ホームページを皆様方にご覧いただきたい。当該 PUB レポートには、傍士委員の対談も掲載されている。

委員長

4要件は今までの議論でクリアしているということですか。

委員

そうである。今までの流れで問題ない。屋根は観客席が覆われていれば良い。

委員

フットボールスタジアムであるということは専用スタジアムということですか。

委員

陸上トラックの無い、サッカー、ラグビー、アメフトといった球技の専用スタジアムである。

委員長

ありがとうございました。段々と基準が厳しい方向に改正されようとしております。それを頭に入れて、基本計画に繋げて行ければと思う。

委員長

ありがとうございました。他にご質問がなければ、委員が COP24 にご出席されたということで何かご発言ありますか。

委員

今回、私はポーランドのカトヴィツェで開催された国連気候変動枠組条約第 24 回締約国会議に参加しました。これは 12 月 2 日から約 2 週間行われ、期間中の 12 月 11 日に開催されました会議、Sports for Climate Action に招待されたので参加してきました。気候変動について話合われる会議において、なぜヴァンフォーレなのかと思われるかもしれないが、私は中銀スタジアムの中にも、或いは山梨県の中にも環境への取組みがあるということで、参加をさせていただきました。

きっかけは、私の友人であるアメリカのグリーンスポーツアライアンスの代表理事の澤田さんと色々な話をしていた中で、一般社団法人グリーンスポーツアライアンスの日本法人として 2017 年 12 月に富士河口湖町に設立されたこと。現在港区にある事務所も富士河口湖に移転する予定です。米国のグリーンスポーツアライアンスは 2012 年マイクロソフトの創設者の 1 人であるポール・アレンが設立した非営利法人であり、設立 8 年目の現在ではプロ・アマのスポーツチーム、学生チーム、スポーツリーグ、スタジアムアリーナ等の運営管理団体、協賛企業、NGO、NPO など実に 600 を超える団体が加わっている大きな組織

である。先日、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団が日本に財団を設立し、その中で様々な取組をしたいと報道されていましたが、そのグループの1人が澤田さんである。今、国連では、持続可能社会の構築のため、スポーツに関わるあらゆる関係者、例えばクラブチーム、球技場の施設、関連企業などで、スポーツによるSDGsの実現を目指している。これを国連が提唱している17の項目、それをスポーツの団体を通じて何か出来ないかとお話しさせていただいた中で、ヴァンフォーレはスタジアムの中で再利用食器の取り組みを行っているとお話をさせていただきました。澤田さんは、国連のフレームワークをつくる7人の中の1人で、今回、日本から私が登壇をさせていただきました。我々ヴァンフォーレというクラブは、2004年から特定非営利活動法人スペースふうとスタジアムでエコプロジェクトをやっています。実際の数値は2004年から2014年までに63,800個分の使い捨て容器を節約しました。本来出る61トンのゴミが約11トンに削減出来ました。そして49.2トンのCO2を削減することができました。この49.2トンは杉にすると3,505本分を保護したと事になるという具体的な数値を出して発表しました。国連が提唱しているSDGsに、スポーツの団体が17の側面から取り組むことによって何らかの発信力があるのではないかということ。国連が中心になって、各スポーツ団体を通じて環境問題や教育問題を積極的に発信して貰いたいという事なので、今回これをきっかけに、これまで海野会長が一生懸命取り組んできた地域連携を活かし、山梨の皆様にはぐくんでいただいたヴァンフォーレの組織・団体が積極的に参加をさせていただいたところ。ネーミングライツといったところにも、山梨県内の企業様はもちろん、世界に私達の名前を轟かせて、スタジアムができた暁には、ヴァンフォーレと一緒に何かをやりたい、実現したい、プラットフォームを作って社会課題をしたい、という取り組みに繋がればという思いでいる。本当に小さい私達のクラブの取組みですが、小さいクラブでも国連の場で発表させていただき、継続して活動する意義を大切にしたい事は様々な方々からご評価をいただきました。

委員長

大変いいお話をありがとうございます。

委員

ごみが減ったという話について。20年前にドルトムントを見てきた。スタジアムの7万の人達がゴミをほとんど出さずにリユースカップを使った結果、試合終了後に時間をかけずに全て消灯することができていた。東京ドームの巨人戦で満員5万人の時にどうだったか、それを調べた小学生が読売新聞に投稿していて、それによると夜中の4時までごみ処理をしていたという。ゴミの数、電気使用量、作業をする人たち、全てに効果があった。

委員長

ヴァンフォーレの長年の取り組みが世界で評価され、国連の場で発表されたのは大変名

誉で素晴らしい事です。

5 閉会

委員長

今日予定されていた議事は全て終了いたしましたので、これで議事を終了したいと思います。ご協力ありがとうございました。

事務局

ありがとうございました。以上をもちまして本日の会議を終了させていただきます。